

全従業員で、環境保全活動に取り組んでいます。

環境に与える負荷を最小限にするため、環境マネジメントシステム (EMS) を構築し、日々環境保全に取り組んでいます。今後もさらに改善をして、環境との調和を図った事業を行ってまいります。



羽間 和彦
常務取締役 SC営業本部長

原単位設定を目標に、ISOをより推進していきます。

2003年度の取り組みの中で非常に難しかったのは、電気、水道の使用量を減らすことでした。SCの運営という立場上、集客数を上げることは我々の使命です。増床や営業時間延長に伴い、電気や水道の使用量も増加し、前年度比何%削減という目標達成が難しくなります。そうすると責任感を持っている従業員やテナントさんのやる気を削いでしまいます。2004

年度からは原単位*1設定を目標に定めて、ISOをより推進していきたいと思えます。2003年のイオン大和SCの事故は、大変申し訳ない結果となってしまいました。しかし、この事故によって環境問題が後退してしまうことのないよう、反省と改善を重ね、「安全に絶対はない」ということを肝に銘じて取り組んでいきたいと思えます。(イオン大和SCの事故は12ページ参照)

※1 9ページ参照

2003年度 環境目的・目標と実績

2003年度 EMSの範囲

駐車台数/約50,800台 来客数/年間約1億4625万4千人
従業員数(本社・保険営業部を含む)/約326人 専門店の従業員数/約27,842人



目的・目標	担当	実績	自己評価
1. 2003年度までに電力使用量を2002年度対比5%削減します。	SC営業部会 羽間常務	倉敷・岡崎SCでインバーター制御装置を導入し実験を行った結果、一定の成果がありました。	観察 104.6%
2. 2003年度までに水道使用量を2002年度対比5%削減します。	SC営業部会 羽間常務	トイレ水量調整等実施しましたが、来店客数が大きく伸び目標は達成できませんでした。	観察 105.9%
3. 2003年度までにコピー使用量を2000年度対比20%削減します。昨年度目標対比10%削減します。	管理部会 藤井常務	2000年度対比6SCが新設されたにもかかわらず大幅削減達成しました。プロジェクターの使用等で、本当に必要なものみのコピーが実行されています。	達成 84.3%
4. 2003年度までにコピー用紙使用量を2000年度対比30%削減します。昨年度目標対比8.5%削減します。	管理部会 藤井常務	コピー以外のプリンター・ファックス等の使用量が增大していると思われ2.1%超過しました。	観察 102.1%
5. 廃棄物の削減をめざします。 (1)「ゼロエミッションショッピングセンター」をめざします。 (リサイクル率100%) (2) 保険部会は「紙の削減」をめざします。	SC営業部会 羽間常務 保険部会 岡崎常務	(1) ゼロエミッションは不適合でしたが、各SC別のリサイクル量の把握や計量システムの導入等、基盤整備が進みました。 (2) 業務改革の推進により成果はありましたが、契約数増に対応しきれず紙使用量は増加しました。	(1) 不適合 63.5% (2) 不適合 116.2%(コピー用紙使用量)
6. 全従業員に事故・緊急事態の想定を教育します。	管理部会 藤井常務	全従業員に緊急事態対応ビデオ教育を実施しました。	達成
7. 全部署より、準内部監査員を1名以上育成します。	管理部会 藤井常務	全部署に内部監査員1名以上配置できました。	達成
8. 環境会計を導入します。	管理部会 藤井常務	施設管理・建設・開発・日常業務に分類集計する基準を作成しました。	達成

部会 環境管理責任者	目的・目標	実績	自己評価
1. SC開発部会 横田常務	(1) SC開店時に、環境配慮がわかる表示をします。 (2) 規制対応や環境配慮などに関する情報の、次への伝達ルールを定めます。	(1) 高岡SCから実施し、エコバスターやエコベンチ等を導入し表示しました。 (2) 高知SCから竣工引継ぎ書に項目を追記しました。	(1) 達成 (2) 達成
2. SC営業部会 羽間常務	(1) 法規制対応への独自基準を制定します。 (2) 後方業務を改善し、標準化を推進します。	(1) 制定しました。 (2) 後方業務改革PITを発足し推進しましたが文書化等が今後の課題です。	(1) 達成 (2) 観察
3. 保険部会 岡崎常務	(1) 内務処理を改善し、紙を削減します。	(1) 内部処理の業務改善効果はありましたが契約増に対応できるまでには至りませんでした。	観察
4. 管理部会 藤井常務	(1) 環境情報を発信し、社外コミュニケーションを促進します。 (2) 環境情報を共有化し、社内コミュニケーションの向上をめざします。	(1) 明治乳業さま本社等でISO推進担当者が事例発表を行いました。 (2) 環境委員会で各部会報告を部会事務局が行うように実施しました。	(1) 達成 (2) 達成

削減目標 → 達成=超過率が100%未満 観察=超過率が100%以上~106%未満 不適合=超過率が106%以上 超過率=実績÷目標×100
実施目標 → 達成=計画とおりに実施 観察=計画とおりに実施したが終了できず状況を観察する 不適合=計画とおりに実施しなかった

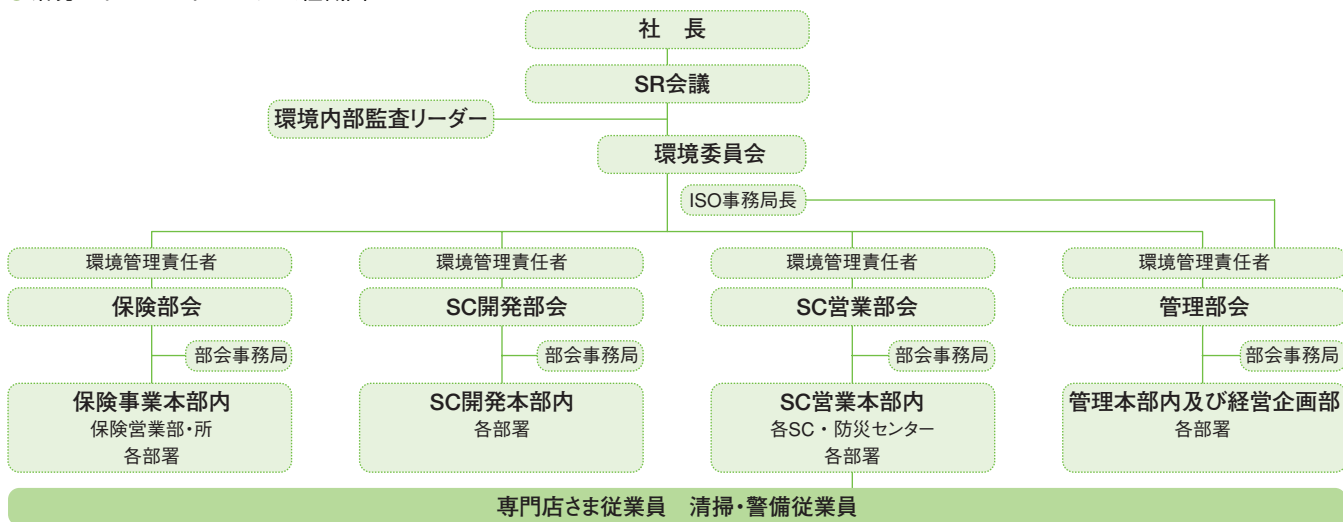
■ 前進し続けるために — 環境マネジメントシステム推進体制組織図

イオンモールでは、最高経営責任者である社長自らが環境委員会委員長となり、トップダウンで日々の環境活動に取り組んでいます。また、事業本別別に部会を設け、各担当常務が環境管理責任者としてEMSを推進しています。

当社EMSの大きな特徴は内部監査を重視していることです。当社従業員の30%にあたる96名が内部監査員研修を修了して

おり、日々のEMS運用をチェックしています。また、当社の保険営業部・SCは全国に点在しており、条例や地域特性、設備なども異なるため、毎年全国規模・全部署の内部監査を行い、更に審査機関によるサーベイランスや更新審査も行っています。

● 環境マネジメントシステム組織図



藤井 聖司
常務取締役 管理本部長

SCに入っているたくさんの専門店さまに、我々のISO活動を十分に理解してもらわなければなりません。専門店さまはスタッフの入れ替わりも頻繁で、そのたびに教育をしなければなりません。しかも2年目に入った人には2年目、3年目には3年目と、歴史的に積み上げてきたレベルを維持して、価値観の共有化を図らなければなりません。そこが非常に難しい点でした。しかし、我々のつたない活動によくぞ協力して下さったと感謝しています。

継続維持に力を入れています。

■ 環境目的 (2006年度まで)・2004年度環境目標

2006年度 EMSの範囲 **25 SC**  2004年度 EMSの範囲 **18 SC** 

環境目的 (2006年度までに)	2004年度目標
1. 地球温暖化防止のため、CO ₂ 排出抑制をめざします。	全18名が取得します。 環境に関連する新規資格の全員取得できるその他の公的資格を探索します。 エネルギー管理基準を制定します。
2. 地球資源を保全し、循環型社会の構築をめざします。	電気回路などの改善項目を洗い出します。 導入可能な技術情報を収集します。 エコカー導入基準を制定(エコカー＝排出ガス★★★★以上)します。 ゼロエミッションSC候補を3SC選定します。 新SCでは生ごみアウトソーシングで100%リサイクルし、既存SCではアウトソーシング先を探索します。 50%導入(18SC中9SC)します。
3. 環境法規制・その他要求事項の従業員教育を徹底し、遵守体制を構築します。	①エネルギー管理ができるSC管理をめざし節減計画を推進します(「エネルギー管理員」を全25名が取得)。「エネルギー管理員」を取得するしくみを構築します。 ②電気回路の見直し等、使用量削減手法を開発します。 ③クリーンエネルギーの導入を検討します(1SCに1技術を導入)。 ④エコカー導入を推進します(全車両の50%以上)。 ①ゼロエミッション・ショッピングセンター(ゼロエミSC)を1SCで達成します。 ②廃棄物フローの見直しを進め、リサイクル率を向上させます(2003年度末より10%向上)。 ③計量システムを導入し、各テナントからの排出量を把握します(2003年度末5SCで導入済)(25SC中20SCの80%導入)。 ④廃棄物の発生抑制のため、パートナーさまへの環境教育及びコミュニケーションを徹底します。 ・廃棄物業者・全テナント従業員に年1回必ず実施します。 ・関係各社の定例ミーティングを開催します。 ・業種部会・店長会議で環境問題を議題にします。
	①排水基準を達成維持するため、グリストラップ清掃教育を徹底します。 ②生ごみ処理機に関する基準等、設備関連基準を整備します。 ③地域の環境保全のため、その他要求事項を従業員に徹底します。 ・グリストラップ清掃基準を制定します。 ・SC配管設営基準を制定します。 生ごみ処理機の導入基準と管理基準を制定します。 部署別・その他要求事項の教育を徹底します。